

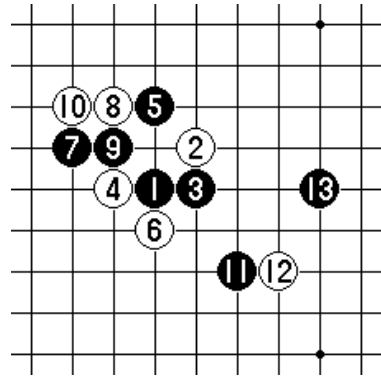
連珠っておもしろい

九段 河村典彦

●第29回● 力負け?

今回は、1月に行われた三上杯の一戦をお届けしよう。三上杯はここ2年参加していないが、以前は2期連続優勝、それも負けなしという縁起のいい大会である。今年の出場メンバーを見ると岡部、山口がやはり強敵である。岡部君とは1勝同士で2回戦で激突した三上杯に相性が良いという理由の一つにこの大会は題数指定打ちであることが挙げられる。昔は未知の局面での対応力がまがりなりにあったため、勝てたのではないかと思っている。昨年の名人戦の不調が本物？なのかは、この三上杯を見てみれば分かるだろうと思っていた。では、その一局をご紹介します。

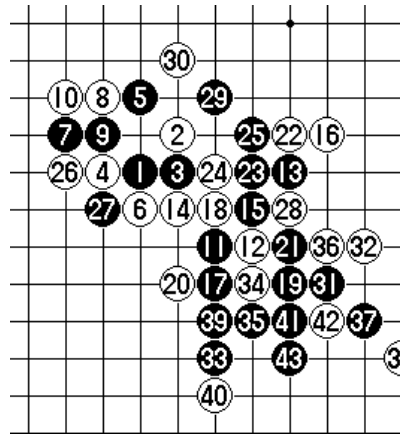
黒 岡部
白 河村



1~13

今回は仮先はすべて雲月3題で指定した。これでもたいいていの人は黒を持つだろう。白4はいろいろあるが、この4で打って見た。黒5は岡部君らしい手で、すぐには負けないという手である。白6で早くも未知の局面となった。白10は盤端を意識して下からは押さえた方が良かったかもしれない。と言うのも、黒11がうまい展開で、黒が一本取った形である。ここでは時間がいくらあっても足りないのだが、早打

ちとあつて目をつぶって白12に打った。ここで黒13と開いた手もなかなか上手く対して白14が敗着となった。

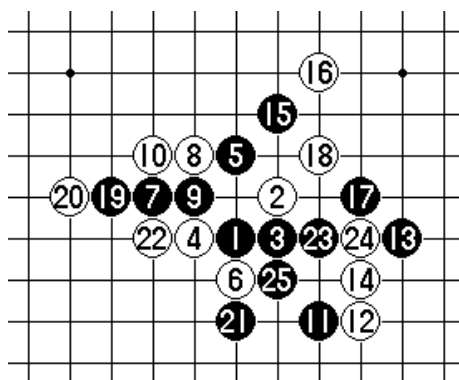


黒15と引いて17が上手い手で困った。やむなく白18と防いだのは、まだしも四ノビを利かそうとしたからである。

しかし、黒23、25がこの場合の実戦的好手だった。こう落ち着かれると、白としても防ぎに行かなければならない。しかし、黒29に白30が絶対なのが痛く、わかつてはいたが黒31に含

まれるともう防ぎがない。白26ではまだしも39から利かしておくところだったか。

振り返ってみると、もともと苦戦は覚悟していたが、白12や14でまだ強い防ぎがあつたようである。例え、次の図の白14。



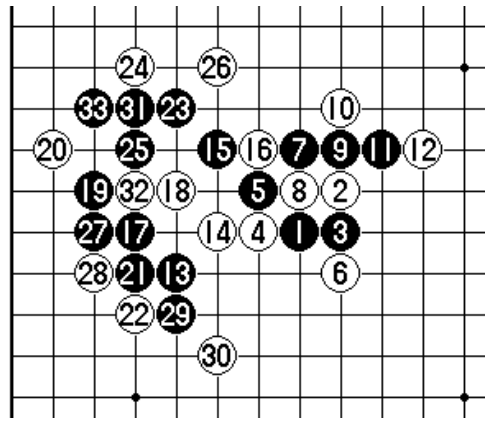
この白14の狙いは、一見黒15、17後23、25で四追いになりそうだが、それはまっすぐ白が四にノル。また、黒21まで両ミセと思つても、堂々と白22に止めておけば、黒23も25も四々禁

がからんで四三ではないという手である。これもよほど打とうかと考えたが、あまりにトリッキーなため、もし読みぬけがあつてあつけなく負けたらカッコ悪いと思ひ自重した。

いずれにしろ、岡部君には完全に力負けである。岡部君はこの後も山口九段を破つて優勝を決めた。関西では賀茂君が長谷川王位を破つたと聞き、いよいよ新たな時代の幕開けかと実感させられた。しかし、まだまだ我等元若手軍団も素直に軍門に下るつもりはない勝負はこれからだよ！

もう一局三上杯の一局をご紹介しよう。山口九段との一戦で、またしても私の仮先雲月三題であつた。

黒33にて白投了
 白6と打てば、浦月定石の異着に戻っている。

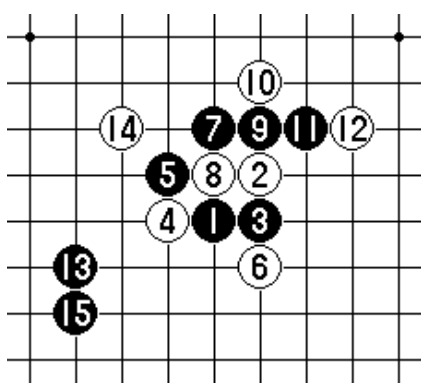


この形が黒勝ちだとすると後の題数指定打ちに大きく影響することとなるので、結構重要だ。

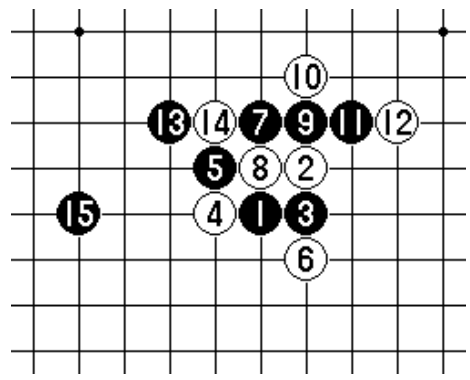
白8、10は仕方ないと思つたが、黒11といきなり引かれたのには驚いた。白12と止めることによつて、白からもう一手呼手を打たれたら止まらないので、黒は左辺で攻めるしかない。その覚悟が入つた三であつた。黒13はそんな背景で打たれた一着で、白14は当然と思つて打つたのだが、黒

15、17でしびれてしまつた。こう大きく開かれると、通常ではなかなか止めにくい。盤端までの距離も十分あつて直感では止まらない。いろいろひねつた防ぎも考へてみたが、すべてダメだつたのでやむなく白18と防いだ。しかし、こんなおいしい局面から山口君が逃すはずもなく、黒21と呼手を打たれては終わりである。

局後、白14では15だつたとの反省をしたが、黒15と打たれるとやはり止まりそうにない。



また、局後検討の結論として、次図の組み立ての方がいいということとなつた。



黒13でいきなり四を打つて15と開く手である。なるほどこの方が良さそうだが、いろいろ調べてはいるが、どうも白にいい防ぎが今の所見つかつていない。そうすると、黒7までの形は黒勝ちなのだろうか？浦月や恒星からも出そうな形なので、作戦として深めればいづの日にか芽が出るかもしれない。作戦は早目に仕込んでおくのが重要なのだ。